

カラマツヤツバキクイムシの発生に注意

北海道では、平成14年と16年に台風により大量の風倒木が発生しました。風倒被害が起きるとクイムシ類が風倒木で大量増殖し、次いで周囲の生立木を加害・枯死させることがあります。カラマツではカラマツヤツバキクイムシの被害が風倒や食葉性害虫後に発生します。

林業試験場では、これまで、環境への影響がほとんどない集合フェロモンを利用したカラマツヤツバキクイムシのモニタリング(写真-1)や防除の技術開発を進めてきました。現在、平成14年に風倒被害が起きた十勝地域で実用化に向けた調査・試験を行っています。

この地域ではモニタリング調査の結果、平成17年夏にカラマツヤツバキクイムシの著しい増加が確認されました(図-1、写真-2)。来年はカラマツヤツバキクイムシによる生立木被害が多発するおそれが十分考えられます。現地では放置丸太の搬出を徹底すること、被害を早期に発見し、被害木を速やかに処分することが必要です。特に近年、過去に例のない大規模な枯損被害が発生しており(図-2)、これまで以上に警戒が必要です。

(森林保護部主任研究員・病虫科)



写真-1 集合フェロモンを取り付けたモニタリング・トラップ



写真-2 集合フェロモン・トラップで捕獲されたカラマツヤツバキクイムシ(平成17年夏には1台で最高約23,000頭捕獲された。)

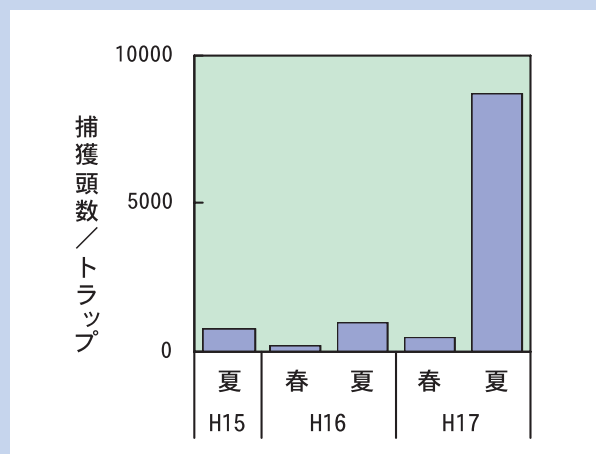


図-1 十勝地域におけるカラマツヤツバキクイムシのモニタリング結果

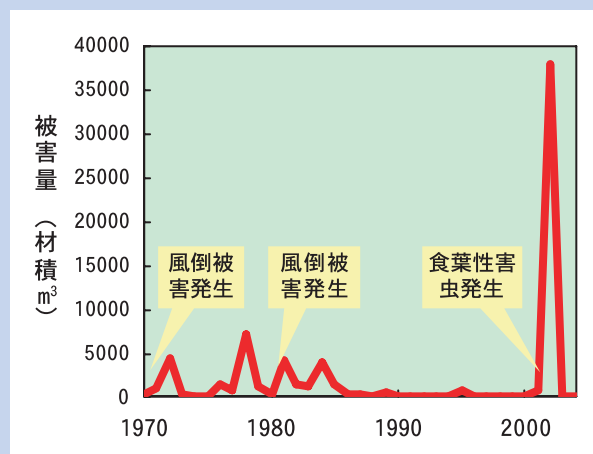


図-2 カラマツヤツバキクイムシの被害推移